

令和8年3月4日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立早稲田幼稚園
所在地	新宿区早稲田南町25

1. 活動のテーマ

<テーマ>

もっと知りたい！仲良くなりたい！幼児の心が動く保育を目指して -園内マップ作りを通して-

<テーマの設定理由>

本園の園庭には、様々な植物や生き物と触れる環境があり、幼児は日々、自然との出会いを繰り返している。昨年度の研究では、園庭環境を見直し、学年ごとに自然環境とのかかわりをまとめ、幼児がより自然に興味をもてるようになり、保育者間でも幼児が自然とどのようなかかわりをしていたかを共有することができた。その中で、生き物に対して関心や知識を深め、大切にすることをしてほしい、また、自然とかわる中で心動かされる体験を重ね、様々な活動により意欲的になってほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

- ・毎月1回園内研究会を行う。園庭マップに幼児が自然とかわっている姿の写真とメモをつけ、それをもとに、学期ごとの園庭の自然マップを作成する。
- ・自然の専門家の指導で、幼児と保護者対象の園庭探検、降園後、保育者対象の園庭探索を行う。
- ・地域の地図を玄関に貼りだし、公園での自然物の発見などを、保護者に記入してもらい、地域の自然環境マップ作りを進める。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・園内の自然環境マップ
- ・幼児の活動を記録するためのデジタルカメラと貼り出すための地図付箋
- ・栽培活動のための苗や種、培養土、プランターなど
- ・調べやすくするための絵本や図鑑を入れる本棚
- ・いろいろな草がはえるようにした草のおうち（園庭の一角）
- ・玄関に貼り出した地域の地図
- ・年長児が花を植えたプランターを集めておいた花のおうち
- ・木の枝をひもで束ねたダンゴムシマシモン
- ・すぐに調べることができる研究所（テラスの一部を区切って囲い、小さな図鑑や虫メガネなどを置く）
- ・鳥のための餌入れ

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- 自然物、栽培物を遊びに取り入れる。
- ・草花を使った色水遊びで、色の違いや濃さに気付き、量や種類を変えて試したり、友達と比べたりする。
- ・落ち葉を使って、落ち葉プールで遊んだり、紙に貼り合わせて落ち葉アートを作ったりする。
- ・落ちていた木の実をごちそうにしたり、すりおろしてにおいや、色が出るかなどを試したりする。
- 園庭で見つけた虫を虫眼鏡でよく見たり、図鑑で調べたり、飼ってみたいりする。
- ・カマキリのおなかにハリガネムシがいないか調べてみる。
- ・幼虫が、チョウになるかがになるか、図鑑で調べたり、実際に飼ってみたいりする。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

(5歳児)・自分たちで花を植えたプランターを集めて置いたことで、水やりをしながら、チョウが来たことに気付き、保育者や友達に知らせていた。・収穫したお米の皮(もみ殻)を向きながら、「この中にお米があるんだ」とつぶやく。錯誤を繰り返しながら脱穀したことで、食べられるようになるまでには、時間や手間がかかることを知ったり、科学的な思考や道徳性の芽生えが育まれた。

(4歳児)・姫リンゴの実を見つけ、リンゴジュース作りをしたいという願いをもち、砂場遊具のざるですりおろそうとした。しかし、うまくいかず、年長児が使っていたすりおろし器があることを保育者が気付かせ、借りたことで、うまくすりおろすことができ、リンゴジュースを作ることができて喜んでた。道具を選択し、願いを実現させていくという探究的な学びのプロセスがこうした子どもの姿につながった。

(3歳児)・保育室から園庭に出るところに、オジギソウのプランターを置いたことで、園庭に出るときに、オジギソウに触れながら「おはよう」などと声をかける姿が見られた。

<活動の様子>



5. 振り返り

・継続して園庭の環境を見直し、変えてきていることが、少しずつ定着し、幼児の活動の中に反映されるので、幼児の姿からさらに見直しをして、現状を維持したり、変更したりしていくことが必要である。

・栽培物は、天候に左右されることが多く、うまくいかないこともあるが、うまくいかなかった時には、その原因を幼児と一緒に考えるなど、大切な経験の一つとする。また、自然との関わり・生命尊重につながる姿が見られるよう、再挑戦できる機会を作り、環境構成を工夫していく。

・園庭マップに、幼児の写真とその時の様子を書いたメモを貼り、保護者が見えるように掲示したことで、保護者も巻き込んで、地域の自然マップ作りを始めることにつながったので、今後も、園での活動を保護者と共有し、家庭と連携して探究活動が進められるようにしていく。

以上